

令和4年度学校関係者評価委員会議事録

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議題

令和4年度前期の実施状況報告と令和4年度後期の改善方針

- 開催日時 令和4年11月19日(土) 10:00～11:00
- 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室
- 委 員 常松 哲 理事長
伊藤 幸一 理事
山口 修二 一般社団法人札幌建設業協会 専務理事兼事務局長(業界関係者)
奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一 (株)イーエス総合研究所 取締役執行役員業務企画部長
(企業等委員)
嘉屋 幸浩 (株)園建 代表取締役(企業等委員)
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長
松本 勲 モエレ町内会員
三上 敬司 校長
大坂 道明 環境土木工学科長
岩瀬 聡 造園緑地科長
阿部 峰雄 測量情報科長 兼 環境土木・造園施工管理科長
- 資 料 令和4年度前期 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| I 教育理念・目標 | II 学校運営 | III 教育活動 |
| IV 学修成果 | V 学生支援 | VI 教育環境 |
| VII 学生の受け入れ募集 | VIII 財務 | IX 法令等の遵守 |

令和4年度前期 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

I 教育理念・目標

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

①卒業生

環境土木2年生14名、造園緑地科2年生1名、測量情報科15名、環境土木・造園施工管理科18名、計48名（定員数70名 入学者数49名）全員が就職先を決定し卒業した。

②在校生

在校生環境土木工学科19名、造園緑地科15名、計34名（入学時学生数38名、定員数40名）が2年生に進級した。

③新入生

新年度は環境土木工学科17名、造園緑地科8名、測量情報科18名、環境土木・造園施工管理科23名、計66名（定員数70名）が入学し、令和4年度在校生は100名（総定員数110名）となっている。

教育理念 少人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育

教育目標 ○基礎学力の向上を図る○基礎的な専門知識と技術の習得○素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養

「人間力」を向上させ、その人間が入った会社・組織に貢献できれば、社会への貢献になり自らの人生を確実なものにしてゆける。

少子化により労働者人口の減少と価値観の多様化が進む中、様々な変化へ適応できる人材の育成が求められ続けると考えることから、教育理念・目標は本校の目指すものとして適切だと考える。離職率を低下させるために、特に社会人基礎力の向上を図る。

本校が選ばれ続ける学校であるために、学生、卒業生、業界・企業関係者、保護者、高校、地域住民も本校の教育理念・目標の理解を促す。

委員の意見

（下原）体験入学には、保護者や企業が必ず同伴しているのか？

（三上）全員ではない。

（下原）学生本人を含め、随行者にも本校の理念を理解してもらった方が良い。

（三上）随行者を含め体験参加者にはアンケートを実施し、本校の印象などを伺っている。

（下原）企業からも離職率についての話題が挙がる。ただ学校に入って卒業するだけが目的ではなく、学校で何を最低限やらなければならないか、個々が目的意識を持っていないと意味がない。顧問方の話を聞くと、学生が当面の目標が何なのか押さえておらず、授業に集中できていないと感じるようだ。定期試験に合格するだけが目的なのか？毎回決まった学生が机に突っ伏している様子もある。教える側も学生を集中させ興味を引くような教え方をしなければならぬが、学生の目的意識も低いのでは。授業態度を改善する工夫をしてほしい。

（三上）一方的な講義にすると学生は寝てしまうので、ノートを書かせ計算などの作業させるようにしている。学生にはガイダンス時に体調管理のことも伝えている。

（阿部）古いやり方かも知れないが、寝ていれば起こして、出ていけということもある。

（下原）厳しさやメリハリも必要だと思う。

（阿部）学生を怒ると気持ちが落ちこんで辞めしまうと求人企業から聞いているので難しい所。

（下原）逆に、怒らないと自分に関心がないと感じる若手もいるらしい。匙加減は難しい。

（岩瀬）やる気はあっても勉強の習慣がない学生や、苦手なものに取り組まない傾向がある。各教科の目的・到達点について1コマかけて指導するようにしている。個々の教科の内容だけでなく、他教科とのつながりも意識し、学生に伝えるようにしている。

（大坂）講師の先生の講義は専門的で大変興味深い内容であるが、学生にとっては難しい。短期的な目標を持たせると効果的である。

（下原）そういった情報を講師にも共有してもらいたい。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

教育理念 少人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育

教育目標 ○基礎学力の向上を図る ○基礎的な専門知識と技術の習得 ○素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養

造園緑地科は AO 入学（書類選考のみ）を導入して学生を集めているが、意欲はあるものの学力が充分でない学生も入学している。現在、AO 入学者には入学前教育として数学 I の問題を課しているが、今後は国語力についても事前学習が必要であると感じている。

一方、環境土木工学科は試験（数学・作文・面接）を課して入学者を選考している。技術者を育成するためには、基準以上の数学力が必要とされるからだ。しかし、学生数を確保しなければならない面もあり、一部基準に達しない受験者に対して入学前教育を課し入学を認めるケースもある。

学科により教育目標に差はあるが、学力不振の学生であっても丁寧に教育し、質を高めて社会へ送り出したいと考えている。

委員の意見

（下原）離職率を低下させるために基礎学力を高めるとあるが、企業委託生の離職率は把握しているか？離職の理由は？

（三上）企業委託生も 20～30%程度は 3 年以内に離職していると聞いている。人間関係、職場環境、能力的に仕事についていけないなど、様々な理由がある。

（下原）企業から学校への期待は大きいと思うが、委託生の中でも意欲が低く授業への取り組み姿勢が不良な学生がいるとも聞いている。企業が学校に送りっぱなしというのも良くないが、学校から企業へ定期的な報告はあるのか？入学時の意欲や委託生の自覚がだんだん薄れているのではないか。何か工夫できないか？

（三上）定期試験の成績を報告し、問題のある学生については担任から適時連絡を入れている。学校・企業・保護者の三位一体で指導していくようにしている。

（大坂）夏の企業実習期間に企業を訪問して、企業実習での指導内容の充実について依頼している。

（岩瀬）造園緑地科の学生は、意欲はあるが一部読み書きが不得手な学生が入っている。また、幅広く造園を学べるカリキュラムとしているが、学生は勉強していくと公務員やコンサルの方を目指し、造園・造園施工の道を選ぶ学生が少ない。

II 学校運営

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

・令和4年度入学生の出願・合格数（最終）

	応募総数	① 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学	
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	A O					合計
土木	19	9			4	4		17		2		17
造園	9			3	1		5	9			1	8
測量	20	1			1	17		19	1		1	18
施工	23					22		22	1			22
合計	70	10		3	6	43	5	67	1			65

※施工に復学者1名が加わる

「少人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育」を一層強化（意識）し、お客様の満足しうるサービスを提供する。

①2年制環境土木工学科、造園緑地科の定員充足率向上

・お客様が求めているサービスの提供

（ア）学生、保護者、企業等が求めるサービスを把握し、教育にフィードバックする。

（イ）進学相談室と連携し学生募集時より入学生のキャリアプランの相談に乗り、カリキュラム履修、授業内容、教育方法及びキャリアプランを計画する。

②独自性（ブランド）をアピールし、関係者から必要とされる学校を目指す。

・土木・造園・測量と建設部門を総合的に学べる本校の潜在能力を最大化し、建設系専門学校として「札幌工科専門学校」をブランド化する。

（ア）学科を超え教員が連携し、CIM化に対応した教育を作る。

（イ）GISソフト、3DCADの導入

（ウ）教員間の研修の実施

③労働生産性・付加価値の向上をめざす。

・ITの活用により教育においても労働生産性・付加価値の向上を図る。

（ア）(株)イーエス総合研究所 IT管理課、ソフト会社による教員への研修

（イ）教員間研修

（ウ）ITインフラ整備

委員の意見

（下原）CIMや3DCADについては現教員でやるのか？外部から講師を招くのか？設備はあるのか？

（三上）設備や器機はあるので、学内で実施することができる。教員同士で技術を指導し合って、学生に落とし込む体制。

（阿部）一部は(株)岩崎様に講義してもらっている。

（下原）CIMは行政も求めている内容である。なかなか行政内にも指導できる人間がいないので、学校でさわりだけでも指導してもらいたい。

（岩瀬）本校で持っているものを駆使して、学科単体でなく学校全体で業務効率化できるようにしているところ。

（下原）イーエス総研の設計部も国交省の目標にはまだ遅れている。学校と共通するものがあれば互いに指導しあうことも可能と考える。岩見沢農業事務所で現場見学等も積極的に協力したいという話がある。ドローンや北海幹線の滅多に見ることができないシールドトンネルなどの現場を見せることが可能。机上の学習に加えGISの現場を見せるということが有効と考える。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

・令和5年度入学生の出願・合格状況（11月）

	応募総数	② 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO				
土木	15	13				1		14	1		
造園	5		1	2			2	5			
測量	17					15		15	1		
施工	22	1			1	20		22			
合計	59	14	1	2	1	36	2	56	2	0	0

1年制学科への企業委託生の出願が順調であり、定員に達したため12月の入学試験で締め切る予定である。

環境土木工学科と造園緑地科は、体験入学に参加して出願が見込まれていた方はほぼ出願された。今後、出願見込みA・Bランク（体験入学参加または直近で資料請求や問合せがあった）の者が環境土木工学科10名程度、造園緑地科5名程度いる。大学や公務員試験の結果により動きがあると予測している。

また、造園系の企業委託生獲得を狙い、道内と東北の関係企業にDMを送付している。これまで2社ほど反応があった。同時に、これから3者面談が行われる高校2年生へのアプローチを予定している。

委員の意見

（下原）今年高校訪問はできていたのか？

（三上）春は入学相談員が道内各地を訪問、秋は教職員が札幌近郊の高校を訪問した。

（下原）体験入学の状況は？市内の学校が多いのか？

（三上）夏以降は例年より多く各回10名程度の参加がある。単独での参加、保護者同伴、企業同伴など様々である。道内各地から参加している。

（下原）入口の人数が増えることは入学者の増加に期待できる。

（岩瀬）体験に参加すると受験料免除、AOエントリーの許可の特典がある。体験参加者は出願率が高く、来校する方は最終確認の意味合いが強い。その前の段階でより多数の高校生に興味を持ってもらう必要がある。

（大坂）企業委託生の体験参加が増えているが、2年制希望の学生は例年並みの印象。

（下原）日本工学院公務員コースは人が集まっていると聞く。札幌工科も公務員の実績を上げてPRしていると思うが、学生獲得に繋がらない原因は？

（三上・岩瀬）本校は技術教育を行う中で、進路の選択肢に公務員があるという形。公務員の学校としてのPRが強くないのは確かである。本校は大卒区分でも合格しているところが特徴として他校

と差別化できているが、高校教員や高校生にまだ伝わっていない。

(下原) 札幌工科の学生は、大卒と高卒公務員の違いを理解しているのか？

(三上) 1年生の希望者に対して大卒公務員対策を実施しており、理解を促進している。

(阿部) 土木2年生19名中18名が就職希望で、11名が公務員。民間にもバランスよく行っている。家計により自費での進学をあきらめ、企業からの入学を選ぶ高校生もいる。

(岩瀬) 投資にかける感覚が変わっている。2年制に入り社会で評価されるより、一年でも必要な資格が取ればよいという価値観である。委託生で入学しても、勉強をしていると周囲の同級生が公務員に進む姿を見て少し悩みが出ている。

Ⅲ 教育活動

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

①タブレット導入、ITインフラ整備をおこなう。

②クラスター発生を防ぐ対策を引き続きおこない、対面授業を確保する。

③対面授業において社会人基礎力の向上を図る。

18歳の成人により自己責任が求められる中、HR、インターンシップ、現場見学、実習、演習、就職指導を通じて「協調して働く」ことへの理解を促し、職場に定着できる教育をおこなう。

④将来の学校の中核を担う若手教員の確保をする。

委員の意見

(三上) その後、タブレットよりノートPCの方が機能的と考え、導入を検討しているところ。Wi-Fi環境については同窓会に協力いただき、同時に100台を繋いでも耐えられる環境を整備する予定。

(阿部) 昨年度は学校行事が行えなかったが、令和4年度は現在体育大会実施に向け準備している。バレーボール、バドミントン、卓球などの接触のない競技を行う。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①イーエス総合研究所のネットワーク環境整備と共に、令和6年度の1人1台ノートパソコン保有に向けWi-Fi環境、教材のデジタル化、教務系ICTを整える構想をしている。

②令和4年度はこれまで学生17名のコロナ陽性が出たが、クラスターは発生していない。対面授業を基本とし、緊急的にはオンライン授業を併用している。

③今年度は体育大会、インターンシップ、現場見学会を実施することができた。一般学生へは就職面接指導の中で勤労観を高め、社会とのギャップを埋める指導を行っている。コロナの影響で学園祭を中止したが、今後は行事を丁寧に行える体制を整え学校生活の充実を図ることで、学生の自主性や協働の精神を涵養したい。

④造園の若手教員が1名退職した。その後、高校教諭OBを採用することができたが、将来の担い手確保のために更に求人を出している。

委員の意見

(三上) PC導入について、当初は令和5年度よりスタートを希望していたが、準備のためもう1年先送りにする。Wi-Fi設備について業者と打ち合わせている。

(松本) PCを利用した授業は専門学校、大学では主流なのか？全て遠隔でできるということか？

(三上) 他の専門学校や大学がどの程度かの情報ははっきりしないが、小中高はタブレット教育が

始まっている。文科省や国交省の基準があるため、基本は対面授業を行う。その中でPCを利用した授業の効率化や学習効果の向上を目指しており、もしもの時にはオンライン授業にも対応できるように備える。

(下原) 実習でのソフトの操作や動画視聴などでのPC活用はイメージできるが、座学をPCでやっても学生は寝てしまうのでは。極端な話、(教員が教室に行かないで)職員室からでも授業は可能になるが、やはり受講態度などの学生管理が必要となる。

(阿部) オンライン授業では学生の管理は難しい。

(下腹) 採用した高校教諭OBとは?高校で造園科があるのは?

(岩瀬) 当別高校を退職した先生。造園科があるのは岩見沢農業高校のみだった。

(松本) 若手の確保が必要です。学校が札幌工科の教員を目指す学生(委託生)を育てて卒業させ、20歳から実習助手にし、その後正式に登用する方法もあるのではないかと。

IV 学修成果

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

1 退学及び休学者

[退学]

- ・環境土木工学科1年 2名(学業不振、家庭の事情)
- ・造園緑地科1年 2名(進路変更)
- ・造園緑地科2年 1名(就職失敗(希望官庁不採用)による虚脱)

[休学]

なし

2 資格取得及び就職状況

[資格]

- ・2級造園技能士 1/1名合格
 - ・2級園芸装飾技能士 受験者なし
 - ・3級造園技能士 15/15名合格(100%)
 - ・3級園芸装飾技能士 15/15名合格(100%)
 - ・3級ブロック建築技能士 2/2名合格(100%)
 - ・2級土木施工管理技士(1次) 後期 28/28名合格(100%)
 - ・2級造園施工管理技士(1次) 後期 2/2名合格(100%)
 - ・2級管工事施工管理技士(1次) 後期 1/4名合格(25%)
 - ・2級建築施工管理技士(1次) 後期 1/1名合格(100%)
 - ・2級ピオトップ施工管理士 9/15名合格(60%)
 - ・生物分類技能検定3級 1/1名合格(100%)
 - ・エクステリアプランナー2級 1/1名合格(100%)

[就職]

学生の就職志望状況

学 科	学生数	うち、企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、公務員
環境土木工学科2年	14	2	5	9
造園緑地科2年	1	0	1	0
測量情報科	15	15	15	0
環境土木・造園施工管理科	18	15	18	0

- ・北海道職員(総合土木A) 最終合格 1名
- ・ // (企業局A) 最終合格 1名
- ・ // (農業土木A) 最終合格 1名
- ・国家公務員(一般・大卒・技術北海道) 最終合格 1名

• //	(一般・大卒・林学)	最終合格	1名
• //	(一般・高卒・技術北海道)	最終合格	3名
• 北海道職員	(総合土木B)	最終合格	4名
• //	(農業土木B)	最終合格	1名
• 札幌市	(短大の部) 土木	最終合格	1名
• 江別市	土木	最終合格	1名
• 留萌市	土木	最終合格	1名
• 砂川市	土木	最終合格	1名
• 函館市	土木	最終合格	1名
• 民間企業	環境土木工学科	内定	3名
	造園緑地科	内定	1名
	土木施工管理科	内定	3名
• 企業委託生			32名

①退学者の低減

将来のキャリアプランを上げるため、一人ひとり細やかにコミュニケーションをとることを心掛ける。補習時間を使い、個別のフォローを行う。遠隔になった場合でも IT 機器を使いこなすことにより教員学生間の連絡相談を取り続ける。

②就職先企業訪問を行い、就職後の学生の様子を把握し、組織的なフォローアップをおこなう。

1 級土木・造園施工管理技士、樹木医など実務経験後に取得する資格などの受験を考慮した授業内容の展開を行う。

委員の意見

(阿部) 環境土木工学科 1 年の退学者のうち、家庭の事情…日本学生支援機構から奨学金を借りていたが、保護者が生活費に使ってしまったため学費が支払われなかった。学業不振…課題が提出されず粘り強く個別指導をしたが、学生が遅刻をし約束を違えたため留年とした。

<令和 4 年度前期の報告と令和 4 年度後期の改善方針>

1 退学及び休学者

[退学]

なし

[休学]

なし

2 資格取得及び就職状況

[資格]

• 2 級造園技能士	7 / 7 名合格 (100%)	
• 2 級造園技能士 (学科のみ受験)	1 / 1 名合格 (100%)	
• 2 級園芸装飾技能士	受験者なし	
• 3 級造園技能士	6 / 7 名合格 (85.7%)	※1 名学科試験のみ不合格
• 3 級園芸装飾技能士	7 / 7 名合格 (100%)	
• 3 級ブロック建築技能士	4 / 4 名合格 (100%)	
• 2 級土木施工管理技士 (1 次)	後期 3 4 名受験	
• 2 級造園施工管理技士 (1 次)	後期 1 7 名受験	
• 2 級管工事施工管理技士 (1 次)	後期 6 名受験	
• 2 級建築施工管理技士 (1 次)	後期 受験者なし	
• 2 級ビオトープ施工管理士	9 名受験	

- ・生物分類技能検定3級 1 / 4名合格 (25%)
- ・エクステリアプランナー2級 受験者なし
- ・グリーンマスター認定試験 2名受験
- ・技術士補(土木・森林) 7名受験

[就職]

学生の就職志望状況

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科2年	19	0	6	12	1
造園緑地科2年	15	0	7	8	0
測量情報科	18	16	18	0	0
環境土木・造園施工 管理科	23	23	23	0	0

- ・国家公務員(一般・大卒・土木) 最終合格 2名
- ・ " (一般・大卒・林学) 最終合格 2名
- ・ " (一般・高卒・技術北海道) 最終合格 3名
- ・ " (一般・高卒・林業) 最終合格 1名
- ・ " (一般・社会人・技術北海道) 最終合格 1名
- ・ " (一般・社会人・農業土木) 最終合格 2名
- ・北海道職員(総合土木A) 第1回 最終合格 1名
- ・ " 第2回 1次合格 1名
- ・ " (総合土木B) 最終合格 4名
- ・ " (林業B) 最終合格 3名
- ・滝川市 土木 最終合格 1名
- ・札幌市(短大の部) 土木 1次合格 1名 → 2次不合格
- ・石狩市 土木 最終合格 1名
- ・江別市 土木 1次合格 2名 → 2次補欠合格 1名
- ・小樽市 土木 1次合格 1名
- ・ " 社会人 1次合格 1名
- ・弘前市 行政 1次合格 1名
- ・民間企業 環境土木工学科 内定 5名
- ・ " 造園緑地科 内定 2名
- ・ " 測量情報科 内定 1名
- ・企業委託生 39名

委員の意見

特になし

V 学生支援

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

- ①経済的支援の継続
- ②コロナ禍支援の継続
- ③就職後支援の継続
- ④社会人教育の実施

委員の意見

(下原) 学生のコロナワクチンの接種率は？

(三上) 2年生は1名を除き全員2回目まで受けているが、新入生はまだ把握していない。3回目については最近接種が始まったところ。

(岩瀬) 離職率について重要だと考えている。能力的についていけない、仕事が面白くない、公務員は初期の給与が低く民間の方がよく見える等を聞いている。資格を取らせて卒業させることを目標とするのではなく、職場に定着して活躍させることを目標として教育をすることを考えている。

(下原) 今の若い人は自分に都合の良い情報だけを入れ、目先のことで判断しがちである。次の受け入れ先もあるので辞めやすい。公務員の「技術職」ということを浸透・理解させてほしい。社会人入学生の公務員定着率はどうか？

(岩瀬) 私の知る範囲では高い。

(下原) やはり一度社会に出た者の方が落ち着いて仕事に向かうので、そのような学生も増えてほしい。

(阿部) 企業委託生でも、1年間会社に勤めた後に入学する者の方が伸びる。

(下原) 農業土木の方にも入っているのか？

(三上) 昨年度は1名入っている。

(岩瀬) キャリア教育の一環として手伝える。新卒教育を継続していく。卒業後の支援まで(1級施工管理の指導など)学校として行えるようにする。

(下原) 先に昔ながらの指導という話があったが、仕事で札幌工科の卒業生と会うと、〇〇先生にお世話になったという言葉がもらえ、ネガティブな話は出ない。今後も厚い指導をお願いしたい。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①経済的支援

「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度(給付奨学金+入学金・授業料免除)」、「専門実践教育訓練給付金(社会人)」、「長期高度人材育成コース(社会人)」が利用できる。

※長期高度...2年制で専門士の取れる課程が対象で、2年間の学費を北海道が負担し、生活費も支給される制度。本人は教科書・教材・諸経費のみ負担する。

参考 北の森づくり専門学院

学費 17万1520円(別途、教材・被服、資格取得費が必要)

「緑の青年就業準備給付金」…在学中の最長2年間で約114万円支給され、卒業後林業分野に就職すれば返済不要となる制度。

②コロナ禍支援

対面授業を基本とし、出校停止の学生に対してはオンライン授業を受講できる体制である。下宿の学生が陽性となり、帰省が難しい場合には、療養場所の提供も可能である。

③就職後支援

卒業生から資格試験の相談がある。過去問題の提供や答案の添削などを行っている。

④社会人教育の実施

社会人入学者の中にも、学費の助成を受けながら通っているにも関わらず就業意識の低い学生がいる。就職指導の段階より前の相談に乗っている。

委員の意見

(下原) 長期高度人材育成コースの条件はどのようなものか？本校の入学試験時期と合うのか？社会人対象か？条件は厳しいものなのか？

(三上) 資格を取って就職したいという人がハローワークに行って紹介される。本校の入学試験と同様の内容で選考するが、試験日は別途設定している。在学中は毎月出欠報告を行い、本校卒業後も半年の就職定着支援も必要。

(下原) 学校独自の学費免除制度はどのくらい利用されているのか？

(三上) 在校生の9割が何らかの制度を利用している。

VI 教育環境

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

- ①コロナ禍後においても、情報通信技術による仕事が求められることを想定し、ITインフラの整備を行い、タブレットの導入による教育を行う。
- ②GIS、CADソフトの導入、CIM化に対応した授業構築
- ③第一校舎の改修を行う。

委員の意見

(岩瀬) 学校設立40周年授業として、同窓会よりITインフラの整備を進めてもらうことになっている。

(古城・書面) 学校創立40周年記念をして、モエシ会では、令和4年度の改善方針『ITインフラの整備』を、強力に支援することを検討しています。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①ITインフラの整備

Ⅲ教育活動に同じ

②最新機材の整備

土木ではGNSS測量機器、電子平板、3次元測量ソフト、AutoCADなどを使用して授業を行っている。造園ではRIKCADを導入し、オンライン講習で操作方法を学習している。卒業演習の一部で活用を始めた。

③第一校舎の改修

8月～10月に実施し終了した。屋上庭園の撤去、防水、非常階段の防錆塗装と防雪ネット設置、外壁・目地の塗装などが行われた。

委員の意見

特になし

Ⅶ 学生の受け入れ募集

<令和3度の報告>

学科\入学年度		H29	H30	H31	R2	R3	R4
環境土木 工学科	体験参加数	24	33	37	23	34	22
	出願数	24	29	33	19	23	19
	入学数/定員	21/25名	26/25名	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名
	定員充足率	84%	104%	92%	60%	84%	68%
	委託生の割合	3/21名 14.3%	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%
造園緑地科	体験参加数	10	15	8	12	26	13
	出願数	8	10	5	2	18	9
	入学数/定員	6/20名	8/20名	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名
	定員充足率	30%	40%	25%	10%	113%	53.3%
	委託生の割合	0/6名 0%	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%
測量情報科	体験参加数	12	6	17	10	11	13
	出願数	20	15	15	15	16	20
	入学数/定員	19/10名	12/10名	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名
	定員充足率	190%	120%	140%	150%	100%	120%
	委託生の割合	13/19名 68.4%	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	8	7	8	19	5	8
	出願数	17	22	20	33	21	23
	入学数/定員	15/10名	20/10名	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名
	定員充足率	150%	200%	180%	300%	133%	146.7%
	委託生の割合	13/15名 86.7%	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%
全 体	体験参加数	54	61	70	64	65	56
	出願数	69	76	73	69	78	71
	入学数/定員	61/65名	66/65名	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名
	定員充足率	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	104%	92.9%
	委託生の割合	32/61名 52.5%	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%

①学生募集

- ・ 2年制環境土木工学科、造園緑地科の学生数の確保
 - (ア) 入学者の掘り起こし
 - (イ) 入学相談室との連携強化
 - (ウ) 求めるサービスの提供

②進路確保

- ・ 安定した雇用確保

委員の意見

(下原) 道外からの入学生はいるか？
 (三上) 数名入っている。
 (下原) 北海道に来た理由は？
 (三上・岩瀬) 北海道に住みたい、少人数制、就職率の高さと聞いている。
 (下原) 大学でも本州からの学生を確保しないと定員割れする状況である。今後は道外の募集も考えた方が良く考える。
 (三上) 昨年度から入学相談員の井川が東北の高校も訪問している。
 (下原) どこの地域にも一定数の希望者がいると思うので、単発でなく継続していく必要がある。
 (三上) 道外からも資料請求があるので、その方の出身校を中心に訪問する。
 (岩瀬) 高校訪問と同時に造園系の企業も訪問し、企業にも認知を広げている。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

(11月12日現在)

学科\入学年度		H30	H31	R2	R3	R4	R5
環境土木 工学科	体験参加数	33	37	23	34	22	27
	出願数	29	33	19	23	19	15
	入学数/定員	26/25名	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名	
	定員充足率	104%	92%	60%	84%	68%	
	委託生の割合	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	
造園緑地科	体験参加数	15	8	12	26	13	11
	出願数	10	5	2	18	9	5
	入学数/定員	8/20名	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名	
	定員充足率	40%	25%	10%	113%	53.3%	
	委託生の割合	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	
測量情報科	体験参加数	6	17	10	11	13	17
	出願数	15	15	15	16	20	14
	入学数/定員	12/10名	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名	
	定員充足率	120%	140%	150%	100%	120%	
	委託生の割合	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	7	8	19	5	8	17
	出願数	22	20	33	21	23	14
	入学数/定員	20/10名	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名	
	定員充足率	200%	180%	300%	133%	146.7%	
	委託生の割合	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	
全 体	体験参加数	61	70	64	65	56	72
	出願数	76	73	69	78	71	48
	入学数/定員	66/65名	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	
	定員充足率	101.5%	92.3%	95.4%	104%	92.9%	
	委託生の割合	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	

道外の受験者

環境土木工学科・・・岩手県1名

造園緑地科・・・鹿児島県1名

委員の意見

(下原) 測量情報科にゼネコンから入る人はいるのか？

(三上) そうけん、ハヤカワ建設から委託生の応募があった。

(岩瀬) 企業委託生の割合を比較すると、造園緑地科には企業委託生がいない。本校のカリキュラムでは造園系の科目も多く、実習や技能士試験にも取り組んでいるが、学生が希望しない傾向がある。のちの教育課程編成委員会でも議論したい。学生の中で「造園」のイメージのとらえ方に幅がある。

VIII 財務

<令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針>

①入学生の確保

- ・令和4年入学者66名(定員70名)、在籍者34名(定員40名)計100名の学生がいる。
特に2年制学科の入学者の増加を目指す。さらに、退学者を減少させる。

②社会人教育の実施する

③教職員の協働を進める。

④生産物の販売により材料費を回収する。

委員の意見

特になし。

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①入学生の確保

在校生100名(過去最高)であり、今年度はこれまで退学者は出ていない。

2年制の学生増加を目指し活動する(Ⅱ学校運営)

②社会人教育

一般企業の方からの依頼で、学校付帯事業として樹木医試験対策の講習を行った。

全8回、受講者2名。

③教職員の協働

担任クラスの持ち替え、教科担当の変更、他分野の勉強を分担して行っているところ。熟練教員の退職時期が迫る中、現スタッフで継承に取り組んでいるが負担が感じられる。

④感謝祭

11月23日に感謝祭で農産物の販売を予定している。

委員の意見

(嘉屋) 社会人教育というのは依頼すればやってもらえるのか？

(岩瀬) 学校付帯事業として相談に乗ることは可能。

(三上) この他に、北海道職員、北海道建設技術センターの技術研修も請け負っている。

Ⅹ 法令等の遵守

＜令和3年度後期の報告と令和4年度の改善方針＞

- ①カリキュラムの履行
- ②学校運営体制強化
- ③交通事故ゼロ 事故災害ゼロ
- ④ハラスメントゼロ
- ⑤働き方改革
- ⑥CPD 研修

委員の意見
特になし。

＜令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針＞

- ①カリキュラムの履行

コロナの影響はあるが、補講、時間割変更で所定の授業時間の履行がなされている。一部学校行事を行うことができなかったため、実施するための案を考えていきたい。

- ②学校運営体制強化

Ⅷ財務③に同じ

- ③交通事故ゼロ、事故災害ゼロ

大きな事故はないが、業務が重なると集中できない場面があり事故を懸念している

- ④ハラスメントゼロ

適時、校長から助言指導がある。一部学生から教員に対し不満の声があったが、教員・学生それぞれ面談を行い、誤解の解消に至った。

- ⑤働き方改革

イーエス総合研究所のグループではあるが、学校という特性上、同じにはならない。少ないスタッフの中で調整を行っているが、体験入学、入学試験、ハウス管理などで休日出勤があり、平日は授業があるため代休が取れない。生産性の上がる働き方の構築に、工夫が必要である。

- ⑥CPD 研修

各自専門分野に関しては自己研鑽を行っている。平日の講習に参加する時間が取れない。協会誌の購読やオンデマンド配信の受講など。

委員の意見

(岩瀬) 教育 ICT、教育のためのソフト、出欠管理、教務など、オンラインに寄せ替えているところ。学生との連絡も slack などインターネットを使用している。更なる授業内でのインターネット活用、学校業務での活用について、イーエスのネットワーク再構築に合わせて進めている。ただし、オンライン授業のあり方については文科省や地理院の規程に則る必要がある。